

目次

第Ⅰ編 事業概要

1. 背景	I-1
2. 現状解析	I-2
3. 目的	I-3
4. 実施概要	I-4
4.1 放射線部門における相互運用性完結を目指した実装	I-4
4.2 既存システムとの整合における課題の抽出	I-4
4.3 ショールーム機能の継続と充実	I-5
4.4 IHE-Jを用いた相互運用性普及に資するための活動・情報収集	I-7
5. 委員会の設置	I-9
6. 本事業における考察	I-10
7. 相互運用性実現に向けた課題	I-11
8. 相互運用性事業の総括	I-11

第Ⅱ編 基本計画

1. 事業体制	Ⅱ-1
2. 実証内容	Ⅱ-2
2.1 放射線部門における相互運用性完結を目指した実装	Ⅱ-2
2.2 既存システムとの整合における課題の抽出	Ⅱ-2
2.3 ショールーム機能の継続と充実について	Ⅱ-3
2.4 IHE-Jを用いた相互運用性普及に資するための活動・情報収集	Ⅱ-5
2.5 本事業の意義と評価の実施	Ⅱ-5
3. 委員会の設置	Ⅱ-6
4. 実施体制	Ⅱ-8
5. 実施スケジュール	Ⅱ-10
6. 本事業の実展開フィールド	Ⅱ-11
6.1 稼働環境	Ⅱ-11
7. 実証事業の範囲について	Ⅱ-12
8. 設計・製造指針	Ⅱ-13

第Ⅲ編 事業報告と成果

1. 実証事業	Ⅲ-1
1.1 背景	Ⅲ-1
1.2 実施内容	Ⅲ-1
1.3 期待される効果	Ⅲ-1
1.4 インターフェースの再構築におけるアクタ間連携の全体像	Ⅲ-2
1.5 アクタの機能要件	Ⅲ-3
1.6 インターフェース構築作業の概要	Ⅲ-4
1.7 稼動試験	Ⅲ-5
1.8 実装および稼働試験の結果	Ⅲ-5
2. ショールーム機能の継続と充実	Ⅲ-6
2.1 リアル・ショールームの維持	Ⅲ-6
2.2 バーチャル・ショールームの維持	Ⅲ-8
3. 事業成果（総論）	Ⅲ-10
3.1 放射線部門における相互運用性完結比率は向上したか	Ⅲ-10
3.2 医療現場の担当者からみた IHE-J 採用の効果	Ⅲ-10
3.3 経営者の視点から IHE-J の採用を考える	Ⅲ-11
3.4 本事業が国内の IHE-J 展開にどのような影響を与えたか	Ⅲ-12
3.5 IHE-J が採用されるために何が必要か	Ⅲ-13
3.6 相互接続性と相互運用性に関するコストについて	Ⅲ-14
4. 事業成果（各論）	Ⅲ-15
4.1 放射線部門における相互運用性完結を目指した実装	Ⅲ-15
4.2 JAHIS 放射線データ交換規約 2.0 に基づく実績送信への対応	Ⅲ-16
4.3 電子カルテ画面における表示項目追加のための改造	Ⅲ-23
4.4 既存システムとの整合における課題の抽出	Ⅲ-26
5. IHE-J を用いた相互運用性普及に資するための活動・情報収集	Ⅲ-29
5.1 ベンダワークショップにおける情報収集	Ⅲ-29
5.2 RSNA2006 における情報収集	Ⅲ-30
5.3 放射線以外の領域における IHE-J の調査	Ⅲ-31
5.4 放射線領域で未実装の統合プロファイルに関する調査	Ⅲ-31

第IV編 相互運用性普及への課題

- | | | |
|-----|---------------------------|-------|
| 1. | 実装検証委員会の評価から本事業における成果を探る | IV-1 |
| 1.1 | 第一回実装検証委員会 | IV-1 |
| 1.2 | 第二回実装検証委員会 | IV-3 |
| 1.3 | 実装検証委員会の総括 | IV-6 |
| 2. | 事業に参加した埼玉コンソーシアム各社からのコメント | IV-7 |
| 2.1 | 富士通株式会社 | IV-7 |
| 2.2 | 横河電機株式会社 | IV-8 |
| 3. | 本事業から相互運用性普及への課題を探る | IV-9 |
| 3.1 | 相互運用性普及の条件 | IV-9 |
| 3.2 | 相互運用性を採用したプロダクトの現状 | IV-9 |
| 3.3 | 本年度実装の実績返信標準化の評価と普及への課題 | IV-10 |

第V編 相互運用性の実証事業総括

- | | | |
|----|----------------------------|------|
| 1. | 「相互運用性の実証事業」について | V-1 |
| 2. | 「相互運用性の実証事業」の全体像 | V-1 |
| 3. | 「相互運用性の実証事業」の実施概要 | V-2 |
| 4. | 本事業の実施により一体何が改善されたのか | V-11 |
| 5. | 放射線部門における相互運用性の完結は何を意味するのか | V-11 |
| 6. | システムベンダは本事業をどの様に考えたのか | V-12 |
| 7. | 最も高いハードルは何であったか | V-13 |
| 8. | 相互運用性の実証事業を終えて | V-13 |